

八
香
山
抄

又

字彙抄卷第廿四

言語部

世俗言

雄三羽子入亂後日可十書之

由縮言

斷簡言

阿波國文庫

不悉文庫

阿波國文庫

全書抄卷終

言語部

世俗言

此二洞牙入私後日可書之

由緒言

新
斷簡言

阿波國文庫

不悉文庫



世俗言

いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

いふく 言 いふく

しきの
ありあ
うらも
あめし
あめし
あめし

よも標落し
ねねな
かたあま

まへつ
まへつ
まへつ

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あめし
あめし
あめし

あがぢびき 海をぬぐく大がたのひきこ但狭れ海をすむ

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

うき うき 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

あまのり あまのり 也 月をぬぐく

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

左肥

先づいふゆゑの並流いつしは月がぬれが流す様を
見よとてもさういふ例さうぬくからよまゝといふた

由緒言

ゆゑいふゆゑ乃と 延命也 まゆねれひもろく 在奥 人病也

そらよまはたらゆ 是れ命の極也但又物とかりんてんもよ海

あららうく死 百戦すくんとまらくちのうがまの

とよのさうあも 十よはわすつて陸奥のうてよ

あふゆて流 あうよはよくせ 山道の根

いよよのせ 命の短 恋のあつこ こひをわんこと

あひる かりあまも命のわりと流のりやと云成ひんこと

野ららうく見 只野らあらも也而考帝れらりよはくこの流乃と云

あしき 流木者柏杵ふの極と云 見流浦抄委

あつこ お羽のりつ川縮と云 神りそ あまのさくゆはうは

うへうく 古ア茂り古のりつと云 極くま流見流浦抄

あしき と云と云と云遷流

あしき と云と云り麦川の上あくとも

あしき と云と云り

後世流因一人とて
此の人一人は悉くの人
あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あつたか
あつたか
あつたか

あとのつら 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を
後抄 くら びく 盗人を同ら 入を 入を

うら 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

ひ 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

う 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

そ 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

よ 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

う 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

は 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

そ 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

め 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

う 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

あ 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

ち 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

た 是をわまうのつら くら いづら びく 盗人を同ら 入を

和漢文同存、
中国新川界移
町の同存者社
号移町の存出
礼神も用移校
所移も用移校
最抄は初海集
五和稿と云

うらひじやそといふなりき船方ありうひやの度大也
 とうかり柿田庵志多事又さそ及也河村に宴¹⁹甚深琴
 彌いあ大うころあめんを刻りわうととうひやあ
 魚ころんそく地ころ物あり信捕抄よをわり

一 やこよ地ころ橋のいわたりよに歌う大志あいまよえ
 系と信是娘天よまの難波の文¹⁹無¹⁹也信¹⁹文¹⁹
 元大信橋志元家也信と河村に宴¹⁹河人くうよあり
 御¹⁹歌¹⁹の¹⁹も¹⁹橋¹⁹の¹⁹十¹⁹の¹⁹板¹⁹屋¹⁹つ¹⁹ら¹⁹も¹⁹と¹⁹わり¹⁹を¹⁹妓¹⁹女¹⁹
 たり他と河海とろ橋もさくらあつそれよよせ
 よありそこよあめをわこよのあらまそそや
 元大信橋志元家也信と河村に宴¹⁹河人くうよあり

大志がしを統¹⁹の¹⁹也¹⁹。

一 わい思¹⁹て¹⁹ぬ¹⁹人¹⁹も¹⁹さ¹⁹大¹⁹て¹⁹ら¹⁹乃¹⁹死¹⁹の¹⁹ち¹⁹り¹⁹よ¹⁹あ¹⁹め¹⁹
 くらと¹⁹是¹⁹も¹⁹わ¹⁹の¹⁹思¹⁹ぬ¹⁹人¹⁹も¹⁹さ¹⁹ん¹⁹せ¹⁹ん¹⁹死¹⁹ら¹⁹
 也大てらうよてらぬよをぬらもをしくもたさ
 ありへよぬらけうんいせん死とあ¹⁹こ¹⁹ら¹⁹

一 いあへのこをたこのはまにひーうあひ¹⁹あ¹⁹
 乃¹⁹を¹⁹く¹⁹ら¹⁹そ¹⁹こ¹⁹を¹⁹し¹⁹て¹⁹ら¹⁹ぬ¹⁹男¹⁹く¹⁹こ¹⁹に¹⁹死¹⁹
 川よもなをううあひ¹⁹あ¹⁹め¹⁹け¹⁹ら¹⁹ぬ¹⁹男¹⁹く¹⁹こ¹⁹に¹⁹死¹⁹
 あいのうらのくをくらからぬらうあ¹⁹め¹⁹け¹⁹ら¹⁹ぬ¹⁹男¹⁹く¹⁹こ¹⁹に¹⁹死¹⁹
 女男らはをううあ¹⁹め¹⁹け¹⁹ら¹⁹ぬ¹⁹男¹⁹く¹⁹こ¹⁹に¹⁹死¹⁹
 ありあ¹⁹め¹⁹と¹⁹見¹⁹大¹⁹和¹⁹物¹⁹鏡

ありたまふとく此といふるうぬ洗よらりありあり
 とう然らんをめといつらるゆいこく乃帯とまこ
 ちりさきしこく乃らるさかめんちくまこく
 ちるなり又うらるきもたまふとく此といふる
 いま乃んをいしきする人こそきりしとて松を
 ともやまらんきまへしとていふるのさき一故を
 流息おの重人う中かちうあう此具今よは正はぬ
 ありともや中かんあましわれうら乃不敷まへ
 ともまふとくまらるいしきもわらうらあひひ
 うへさるのうくちる也結身いしき乃上人之
 解事也後成といつらるは上人を古あせといふ也如海

母相流如海の多は上人のまがといふるくちるは同
 体ありしとて思後れ

一 ^北

かのゆの池もよあてりそり蓮乃あつこくさるの
 色乃てしとて是らうらる白の池るの菊乃あま
 ちりしとてゆのせりうくを一統承和の帝貴
 ららうらる好せ給くまの黄菊とていり一統よら
 ちりしとていりいりいりいりいりいりいりいり
 転わらる菊乃のらぬ統あら一いり菊ら後統
 又ちりしとて校しをのまら校といつらるいりいり
 校あり是も後統也後成らるひりいりいりいり
 かしや海をいよらるらるいりいりいりいりいり

一 山崎の月乃中は桂わらふ海に妻炭
 經之瀾浮松地之瀾浮樹わり一名波利實多一名若樹
 多之八百字千里樹陰月中は現せり波よふ山まはか
 平ら也（山崎）と月乃中（山崎）のうけくふまはか
 一 秋乃月あつくそくまはるのまはかをわらふくはをま
 くららあつくそくまはるのまはかをわらふくはをま
 一 秋乃月あつくそくまはるのまはかをわらふくはをま
 くららあつくそくまはるのまはかをわらふくはをま

一 月乃中は桂わらふ海に妻炭
 經之瀾浮松地之瀾浮樹わり一名波利實多一名若樹
 多之八百字千里樹陰月中は現せり波よふ山まはか
 平ら也（山崎）と月乃中（山崎）のうけくふまはか
 一 秋乃月あつくそくまはるのまはかをわらふくはをま
 くららあつくそくまはるのまはかをわらふくはをま

三酉何枝を細くもくも

一 桂はくらく末葉をとりく月乃中は桂わらふ海に妻炭
 經之瀾浮松地之瀾浮樹わり一名波利實多一名若樹
 多之八百字千里樹陰月中は現せり波よふ山まはか
 平ら也（山崎）と月乃中（山崎）のうけくふまはか
 一 秋乃月あつくそくまはるのまはかをわらふくはをま
 くららあつくそくまはるのまはかをわらふくはをま

湯澤村本

一 桂はくらく末葉をとりく月乃中は桂わらふ海に妻炭
 經之瀾浮松地之瀾浮樹わり一名波利實多一名若樹
 多之八百字千里樹陰月中は現せり波よふ山まはか
 平ら也（山崎）と月乃中（山崎）のうけくふまはか
 一 秋乃月あつくそくまはるのまはかをわらふくはをま
 くららあつくそくまはるのまはかをわらふくはをま

110X
151
7